研究計画書

【タイトル】オキサリプラチンによる血管痛予防対策の実態調査

【研究者名】

国家公務員共済組合連合会呉共済病院
藤井恵美　髙山良　重田奈美

【研究目的】

A 病院外来治療室での血管痛予防対策における効果について、実態調査を行い今後の看護介入の示唆を得る。

【研究背景】

A 病院外来治療室では約 80%程度の患者が、感染等のリスクも考慮し可能な限り CV ポート造設は行わず、末梢静脈からがん薬物療法を実施している。胃癌や大腸癌の治療で使用するオキサリプラチン(以下 L-OHP)は、末梢静脈からの投与時に血管痛が出現することが多く苦痛を生じる薬剤である。先行研究では血管痛予防対策として、温罨法やデキサメタゾンリン酸エステルナトリウム(以下 DEX)を投与する等の方法が報告されている。A 病院でも(1)温罨法のみ(2)L-OHP に DEX を混注(3)5%ブドウ糖液 100ml に DEX を混注した点滴を L-OHP の側管から投与する方法を実施している。しかし血管痛の訴えは多く、苦痛の軽減には至っていない。血管痛の程度や持続期間は、患者の日常生活に支障を来たしてしまう可能性がある。兵頭らは、血管痛については、症状をきちんと把握し、何によって起きている痛みかを明らかにすることが対策につながると述べている。[1] これまで A 病院外来治療室で実施している予防対策の効果について比較や評価は実施していない。そこで現在実施している予防対策の違いによる効果について実態調査を行い、今後の血管痛予防における看護介入の示唆を得る。

【研究方法】

1．研究デザイン

後ろ向きコホート研究

2．研究対象

2023 年 6 月～2024 年 3 月までに、血管痛予防対策を実施し L-OHP を末梢静脈から投与した患者 9 例

3．研究期間

倫理委員会で承認後～2024 年 8 月

4．データ収集方法

年齢、性別、疾患名、治療歴、レジメン、予防対策後の血管痛の程度、持続期間をカルテから情報収集する。

【分析方法】

年齢、性別、治療歴、レジメン、予防対策後の血管痛の程度、持続期間について比較、検証を行う。

【倫理的配慮】

個人情報保護のため個人が特定されないように個人名は符号化し、外部で発表する場合は個人が特定されないように記号化する。

得られたデータは本研究以外には使用しないこと、データの保存はインターネットに接続しないパソコンを用いて管理すること、データを USB メモリ等で管理する場合にはセキュリティロックのかかる USB メモリを使用し、鍵のかかる引き出しで管理する。研究期間に収集したデータは研究終了後には速やかに削除する。なお本研究は、呉共済病院倫理委員会の承認を受け、実施する。

【引用文献・参考文献】

1）兵頭一之介他：XELOX 療法の副作用「血管痛」はこうして乗り切ろう，がんサポート 11 月号，2010

2）オキサリプラチン点滴静注液　医薬品インタビューフォーム，日本化薬株式会社，2023 年 9 月，第 12 版

3）松山和代他：Oxaliplatin 末梢投与における血管痛の原因と対策，癌と化学療法，38 巻 3 号，p.411~414, 2011

4）木場崇剛他：オキサリプラチン投与時における側管からのデキサメタゾンブドウ糖溶解液の同時投与による血管痛軽減の解明に関する一考察，IRYO，Vol.69，No.4，p.195～198，2015